科目名		単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）					
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）					

授業の到達目標
□　知識・理解の観点
□　思考・判断の観点
□　関心・意欲の観点
□　態度の観点
□　技能・表現の観点

授業計画（全体）

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～２			
３～４			
５～６			
７～８			
９～１０			
１１～１２			
１３～１４			
１５～１６			
１７～１８			
１９～２０			
２１～２２			
２３～２４			
２５～２６			
２７～２８			
２９～３０			

成績評価方法

1

2

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度								可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品								不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、Ｆ
出席							欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	パソコンスキル	単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	ｏｆｆｉｃｅソフト（Ｗｏｒｄ、Ｅｘｃｅｌなど）を使用し、各種ＰＯＰの作成ができる				
授業の一般目標	トリミングサロンや動物病院などでの院内掲示物の作成ができるようになる				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	必要に応じてプリントを配布				

授業の到達目標	
□　知識・理解の観点	ＰＯＰの目的を説明できる。
□　思考・判断の観点	どうすればお客様に見てもらえるかというお客様視点を習得する
□　関心・意欲の観点	デザインセンスについて関心をもつ
□　態度の観点	
□　技能・表現の観点	パソコンの基本的な使用方法が理解できる。

授業計画（全体）

毎回テーマを設け、そのテーマに沿ったＰＯＰを時間内に作成してもらう

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～２	季節のイベントのご案内		
３～４	限定サービス・限定商品のご案内		
５～６	開店・閉店のおしらせ		
７～８	アルバイト・社員募集		
９～１０	メニュー・料金表		
１１～１２	商品紹介		
１３～１４	プライスカード		
１５～１６	案内状		
１７～１８	ショップカード		
１９～２０	名刺		
２１～２２	ポイントカード		
２３～２４	クーポン券		
２５～２６	アンケート用紙①		
２７～２８	アンケート用紙②		
２９～３０	まとめ		

成績評価方法

1　課題と出席率

2

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト							評価なし	優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度				○			40	可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品	○						60	不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、Ｆ
出席							欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数
担当教員	上原　佑真			実務経験紹介				

科目名	コミュニケーションスキルⅠ	単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	今後援助職を目指す上で重要なことは、職業人として必須であるソーシャルスキルのみならず、専門職としての「専門性」の一つとして、コミュニケーションスキルを身に着ける事である。 本科目ではソーシャルスキルに関する学びを土台とし、その上で人間、そして言葉を発しない命ある生き物に関わり支援する専門職として求められる、コミュニケーションスキル、ホスピタリティ力を、効果的に習得できるよう授業を進める。 授業はその目標達成のため、演習を中心に実施し、またオムニバス形式により、多様な視座を得られるよう配慮する。				
授業の一般目標	１）職業人として求められるソーシャルスキルの重要性について理解する ２）援助職として求められるコミュニケーション能力・ホスピタリティ能力を習得する ３）人間・動植物等、命あるものの繋がりと尊厳について理解する ４）主体性を持って、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に着ける ５）コミュニケーションの基礎能力である「読む・書く・問う」力を身につける				
受講条件	後期開講科目「コミュニケーションスキルⅡ」と連動していることに留意の事				
事前学習について（テキスト・参考書等）	テキスト等は使用せず、適時プリント等を配布する				

授業の到達目標

☑　知識・理解の観点	１）ソーシャルスキルならびにコミュニケーションスキルの重要性について説明できる ２）専門職とコミュニケーションスキルとの関連について説明できる ３）コミュニケーションのポイントについて説明できる ４）命あるものの繋がりと尊厳について説明できる
☑　思考・判断の観点	１）自己との関連性を踏まえ、コミュニケーションについて説明できる ２）自己が目指す職種におけるコミュニケーションスキルについて説明できる
☑　関心・意欲の観点	１）学習仲間へペット業界従事専門職としてふさわしいホスピタリティを発揮できる ２）事象に対して自己の意見を表出するとともに、他者の意見を受容することができる
☑　態度の観点	１）学習仲間へペット業界従事専門職としてふさわしいホスピタリティを発揮できる ２）事象に対して自己の意見を表出するとともに、他者の意見を受容することができる
☑　技能・表現の観点	１）学習場面において、ペット業界従事専門職としてふさわしいホスピタリティある双方向コミュニケーションができる ２）事象に対する自己の意見を要約し表現することができる

授業計画（全体）

１）職業人として求められるソーシャルスキルの重要性について講義を行う
２）援助職として求められるコミュニケーション力、ホスピタリティ力について、演習を通じた解説を行う
３）人間・動植物等、命あるものの繋がりと尊厳について、特別講義ならびにネイチャーゲーム等による演習を通じ解説する
４）授業はグループワークを中心に行い、学習者が主体性を持って、他者と協働して学びを深める機会とする
５）コミュニケーションの基礎能力である「読む・書く・問う」力を効果的に身につけることができるよう、新聞等を活用した講義を行う

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～２	【アイスブレーキング：授業概要】 コミュニケーションプログラム体験・授業の全体像	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
３～４	【支援者と対象者】 対象者を「受け止め」「理解する」重要性	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
５～６	【コミュニケーションの原則】 コミュニケーションの原則	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
７～８	【ホスピタリティの構造】 存在認識とホスピタリティ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
９～１０	【特別講義①】 命の尊厳①	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１１～１２	【ホスピタリティ表現の構造①】 ノンバーバルコミュニケーション①・メラビアンの数字	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１３～１４	【ホスピタリティ表現の構造②】 ノンバーバルコミュニケーション②・伝える事、受け止め	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１５～１６	【ホスピタリティ表現の構造③】 バーバルコミュニケーション①・要点をとらえる・言語化	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１７～１８	【特別講義②】 命の尊厳②	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１９～２０	【ホスピタリティ表現の構造④】 バーバルコミュニケーション②・「聞く」ということ・リ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２１～２２	【全体性とコミュニケーション】 周囲を見て動く・話題提供	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２３～２４	【自然との関わり①】 NG：視覚　自然環境への視点	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２５～２６	【思考と言葉を磨く：ガイダンス】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２７～２８	【自然との関わり②】 NG：聴覚　命の繋がり	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２９～３０	期末試験		

成績評価方法

1　授業態度ならびに授業終了後毎回提出するミニッツペーパー・振り返りシートの内容（取り組み姿勢）

2　学期末筆記試験（基礎的知識、技能）

3　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					40%	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度	◎	○		○			10%	可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品			◎	○	◎		30%	不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習			◎	◎			20%	未修得、履修放棄、Ｆ
出席			○				欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	山本　桂子	実務経験紹介	

科目名	コミュニケーションスキルⅡ	単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	今後援助職を目指す上で重要なことは、職業人として必須であるソーシャルスキルのみならず、専門職としての「専門性」の一つとして、コミュニケーションスキルを身に着ける事である。 本科目ではソーシャルスキルに関する学びを土台とし、その上で人間、そして言葉を発しない命ある生き物に関わり支援する専門職として求められる、コミュニケーションスキル、ホスピタリティ力を、効果的に習得できるよう授業を進める。 授業はその目標達成のため、演習を中心に実施し、またオムニバス形式により、多様な視座を得られるよう配慮する。				
授業の一般目標	１）職業人として求められるソーシャルスキルの重要性について理解する ２）援助職として求められるコミュニケーション能力・ホスピタリティ能力を習得する ３）主体性を持って、多様な人々と協働して学ぶ態度を身に着ける ４）コミュニケーションの基礎能力である「読む・書く・問う」力を身につける				
受講条件	前期開講科目「コミュニケーションスキルⅠ」と連動していることに留意の事				
事前学習について（テキスト・参考書等）	テキスト等は使用せず、適時プリント等を配布する				

授業の到達目標

☑　知識・理解の観点	１）ソーシャルスキルならびにコミュニケーションスキルの重要性について説明できる ２）専門職とコミュニケーションスキルとの関連について説明できる ３）コミュニケーションのポイントについて説明できる
☑　思考・判断の観点	１）自己との関連性を踏まえ、コミュニケーションについて説明できる ２）自己が目指す職種におけるコミュニケーションスキルについて説明できる
☑　関心・意欲の観点	１）学習仲間と積極的なコミュニケーション、合意形成を図ることができる
☑　態度の観点	１）学習仲間へペット業界従事専門職としてふさわしいホスピタリティを発揮できる ２）事象に対して自己の意見を表出するとともに、他者の意見を受容することができる
☑　技能・表現の観点	１）学習場面において、ペット業界従事専門職としてふさわしいホスピタリティある双方向コミュニケーションができる ２）事象に対する自己の意見を要約し表現することができる

授業計画（全体）

１）職業人として求められるソーシャルスキルの重要性について講義を行う
２）援助職として求められるコミュニケーション力、ホスピタリティ力をついて、演習を通じた解説を行う
３）授業はグループワークを中心に行い、学習者が主体性を持って、他者と協働して学びを深める機会とする
４）コミュニケーションの基礎能力である「読む・書く・問う」力を効果的に身につけることができるよう、新聞等を活用した講義を行う

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～２	【ホスピタリティ表現の構造④】 試験解説・ボディトーク・相手の立場に立つ・反応をみる	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
３～４	【思考と言葉を磨く①】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
５～６	【個を知る①】 プライベートゾーン・これまでの出会い	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
７～８	【個を知る②】 ブラインドウォーク　他	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
９～１０	【思考と言葉を磨く②】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１１～１２	【アサーティブコミュニケーション①】 人間存在・マズロー５段階	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１３～１４	【アサーティブコミュニケーション②】 意思を伝える・受け止める	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１５～１６	【映画から①】 専門職としてのコミュニケーション・ホスピタリティ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１７～１８	【映画から②】 専門職としてのコミュニケーション・ホスピタリティ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
１９～２０	【思考と言葉を磨く③】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２１～２２	【合意形成演習①】 合意形成ワークショップ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２３～２４	【思考と言葉を磨く④】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２５～２６	【合意形成演習②】 合意形成ワークショップ	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２７～２８	【思考と言葉を磨く⑤】 よむ・書く・問う	・本日の授業内容・資料の整理と復習	
２９～３０	期末試験		

成績評価方法

1　授業態度ならびに授業終了後毎回提出するミニッツペーパー・振り返りシートの内容（取り組み姿勢）

2　学期末筆記試験（基礎的知識、技能）

3　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験	◎	○					40%
小テスト							
宿題授業外レポート							
授業態度	◎	○		○			10%
発表・作品			◎	○	◎		30%
演習			◎	◎			20%
出席			○				欠格条件

成績評価基準

秀、Ｓ（４）：９０点以上
優、Ａ（３）：８０点以上
良、Ｂ（２）：７０点以上
可、Ｃ（１）：６０点以上
不可、Ｅ（０）：５９点未満
未修得、履修放棄、Ｆ
（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	山本　桂子	実務経験紹介	

科目名	飼養管理学Ⅰ	単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	犬や猫を主とした動物の飼養管理について学ぶ 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標	犬や猫の飼養管理について正しく知る				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	パワーポイント資料 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10（エデュワードプレス）				

授業の到達目標	
☑　知識・理解の観点	犬や猫の生態について正しく知る
☑　思考・判断の観点	犬や猫に対する正しい飼養管理が判断できる
☑　関心・意欲の観点	犬種や猫種などの様々な品種に興味関心を持つ
☑　態度の観点	積極的に学ぶ姿勢がある
☐　技能・表現の観点	

授業計画（全体）

犬と猫の違いから学び動物を扱う上で必要な知識を身に付ける。
動物に係わる仕事に就くものとして適正飼養について学び、関わる事柄について学ぶ

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～４	犬とは		
５～８	犬とは		
９～１２	猫とは		
１３～１６	猫とは		
１７～２０	猫とは		
２１～２４	保定とバイタル		
２５～２８	薬剤と消毒		
２９～３２	犬の飼育環境整備		
３３～３６	猫の飼育環境整備		
３７～４０	愛玩動物の飼養管理		
４１～４４	社会における動物の役割		
４５～４８	適正飼養の推進		
４９～５２	災害危機管理と支援		
５３～５６	動物愛護管理行政		
５７～６０	期末試験		

成績評価方法

1　期末試験

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○				100%	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度								可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品								不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、Ｆ
出席							欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	引地　舞	実務経験紹介	動物病院勤務歴１２年　愛玩動物看護師

科目名	ドックトレーニング	単位数	2	科目コード	
授業形態	演習	時間数	30	開設期	１年生前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	犬のしつけ（実技）を学ぶ				
授業の一般目標	歩く、触るができるようにする				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）					

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　犬のしつけ、訓練について説明ができる

☑ 思考・判断の観点　その犬に対してどのようなしつけ方法が合うかを考える事ができる

☑ 関心・意欲の観点　犬の行動について理由を考えることができる

☑ 態度の観点　どのような犬でも冷静に対処できる

☑ 技能・表現の観点　自信をもってどのような性格の犬でもしつけできるようになる

授業計画（全体）

座学にて全体の流れ、犬の習性や本能について学んだあと、実際に犬を使って実技を行う

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～4	犬の本能について（座学）		
5～8	犬の習性について（座学）		
9～12	「歩く」練習　１		
13～16	「歩く」練習　２		
17～20	「歩く」練習　３		
21～24	「触る」練習　１		
25～28	「触る」練習　２		
29～32	実技試験		

成績評価方法

1　単元末の実技試験

2　授業態度や積極性

3　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		80%	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度	○				◎		20%	可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品								不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、Ｆ
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰ点数
担当教員	末岡　賢志			実務経験紹介	訓練士歴　ドッグスクールSue　http://dogschoolsue.com/			

科目名	ペット一般教養	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	時間数	30	開設期	1年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	動物の基礎知識を覚える トリマー・動物看護師・ショップ店員等になる為に、必要な基礎(犬体学、犬種学等) 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	JKC最新ドッググルーミングマニュアル 必要に応じててプリントを使用				

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　犬体や犬種の特徴を理解する

☑ 思考・判断の観点　骨格を理解した上で、グルーミングで犬を扱えるようになる

☑ 関心・意欲の観点　犬種の特徴や行動に興味を持って接することが出来るようになる

☑ 態度の観点　グループワークなどで、チームワークや協力性を養う

☑ 技能・表現の観点　グループワークで作成し、表現する

授業計画（全体）

グループで協力しながら、全員が理解する（協調性、創作性の向上）

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～2	犬体学(骨格)		
3～4	犬体学(骨格)		
5～6	犬種学（グループワーク）		
7～8	犬種学（グループワーク）		
9～10	専門用語（グループワーク）		
11～12	専門用語（グループワーク）		
13～14	中間の復習学		
15～16	中間の復習学		
17～18	犬種の絵を書く		
19～20	犬種の絵を書く		
21～22	動物の健康管理・病気予防		
23～24	動物の健康管理・病気予防		
25～26	全ての復習学		
27～28	全ての復習学		
29～30	期末試験		

成績評価方法

1　期末試験

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○				100%	秀、S（4）：９０点以上
小テスト								優、A（3）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、B（2）：７０点以上
授業態度								可、C（1）：６０点以上
発表・作品								不可、E（0）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、F
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	西田　八千代	実務経験紹介	

科目名	ペット検定対策Ⅰ	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	動物について、広い知識を学ぶ 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	JKC最新ドッググルーミングマニュアル 必要に応じててプリントを使用				

授業の到達目標
☑ 知識・理解の観点　動物について理解する
□ 思考・判断の観点
□ 関心・意欲の観点
□ 態度の観点
□ 技能・表現の観点

授業計画（全体）
テキスト、過去問題を用いて内容を理解する

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
１～３０	動物福祉倫理		
３１～６０	愛玩動物飼養管理士２級　試験対策		

成績評価方法

1　期末試験

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎	◎				100%	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度								可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品								不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、Ｆ
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数
担当教員	西田　八千代			実務経験紹介				

科目名	動物形態機能学	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	動物の形態機能を知り、動物医療を学ぶ上での基礎を構築する 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標	犬猫の形態機能を知る				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	愛玩動物看護の教科書１（緑書房）				

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　動物の形態機能を知る

☑ 思考・判断の観点　正常異常の判断ができる

☑ 関心・意欲の観点　形態機能や生理機能について関心を持つ

☐ 態度の観点

☐ 技能・表現の観点

授業計画（全体）

テキストを用いて進める
高校の復習を行い、その後各臓器を学ぶ
小テストを入れながら知識の定着を図る

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～4	高校の生物の振り返り		
5～8	高校生物のまとめ		
9～12	感覚器（眼、耳、鼻、舌）		
13～16	呼吸器		
17～20	血液、リンパ、免疫①		
21～24	免疫②、肝臓①		
25～28	肝臓②、胆のう		
29～32	腎臓		
33～36	消化器系		
37～40	心臓		
41～44	神経系		
45～48	内分泌系		
49～52	歯、皮膚		
53～56	骨、筋肉		
57～60	単元未試験		

成績評価方法

1　期末試験

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100%	秀、S（4）：９０点以上
小テスト								優、A（3）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、B（2）：７０点以上
授業態度								可、C（1）：６０点以上
発表・作品								不可、E（0）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、F
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	岡田　純子	実務経験紹介	

科目名	動物臨床栄養学	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	時間数	30	開設期	１年生後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	動物の食について学ぶ 目標検定試験：小動物保健福祉士、ペット販売士、トリマー１級、愛玩動物看護師国家試験				
授業の一般目標	ペットの食や栄養を知る				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	愛玩動物看護の教科書２（緑書房）				

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　動物の食事や栄養について知る

☑ 思考・判断の観点　動物それぞれの必要な栄養素がわかる

☑ 関心・意欲の観点　動物の栄養について興味を持ち学ぶ

☑ 態度の観点　積極的に学ぶ姿勢がある

☐ 技能・表現の観点

授業計画（全体）

テキストを用いて進める
五大栄養素について学び、犬と猫の栄養における相違点を学ぶ。BCSや給与法、おやつについても学ぶ

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～2	栄養学総論		
3～4	栄養学各論　炭水化物		
5～6	栄養学各論　ミネラル、脂質１		
7～8	栄養学各論　脂質２、ビタミン		
9～10	栄養学各論　タンパク質		
11～12	犬と猫の食性の違い　エネルギー１		
13～14	犬と猫の食性の違い　エネルギー２		
15～16	ペットフード１		
17～18	ペットフード２　ＢＣＳ		
19～20	食事の給与方法		
21～22	ライフステージ１		
23～24	ライフステージ２		
25～26	病態に応じた食事管理１		
27～28	病態に応じた食事管理２		
29～30	単元末テスト		

成績評価方法

1　単元末試験

2　冬休みの課題

3　授業態度

4　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80%	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト								優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート		○	◎	◎			10%	良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度			○	◎			10%	可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品								不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、Ｆ
出席							欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	岡田　純子	実務経験紹介	なかの動物病院　https://nakanoah.info/

科目名	動物感染症学	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	１年生前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	感染症を防ぎ治療するために病原体の種類や特徴、感染方法や特徴的な症状を知る 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標	動物の感染症を正しく知る				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	愛玩動物看護の教科書２（緑書房）				

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　動物の感染症について知る

☑ 思考・判断の観点　動物の感染症を見分けることができる

☑ 関心・意欲の観点　動物の感染症について興味を持ち学ぶ

☑ 態度の観点　積極的に学ぶ姿勢がある

☐ 技能・表現の観点

授業計画（全体）

テイストを用いて進める
基礎用語を学び、代表的な犬猫の感染症について学ぶ

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～4	ガイダンス　総論１		
5～8	ガイダンス　総論２		
9～12	ウイルス各論		
13～16	細菌		
17～20	細菌		
21～24	真菌、リケッチャ		
25～28	ワクチンについて		
29～32	寄生虫とは何か		
33～36	条虫		
37～40	吸虫		
41～44	原虫		
45～48	外部寄生虫症１		
49～52	外部寄生虫症２		
53～56	外部寄生虫症３		
57～60	単元末試験、解答解説		

成績評価方法

1　単原末試験

2　夏休みの課題

3　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					90%	秀、S（4）：９０点以上
小テスト								優、A（3）：８０点以上
宿題授業外レポート		○	◎	◎			10%	良、B（2）：７０点以上
授業態度								可、C（1）：６０点以上
発表・作品								不可、E（0）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、F
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	岡田　純子	実務経験紹介	なかの動物病院　https://nakanoah.info/

科目名	動物関連法規	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	時間数	30	開設期	１年後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	動物に関わる法規、労働に関わる法規について学ぶ 目標検定試験：愛玩動物飼養管理士２級				
授業の一般目標	動物に関わる法律についてわかる				
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	愛玩動物看護の教科書２（緑書房）				

授業の到達目標

☑ 知識・理解の観点　動物に関わる法律がわかる

☑ 思考・判断の観点　ケースにあった法律がわかる

☑ 関心・意欲の観点　法規について興味を持ち学ぶ

☑ 態度の観点　積極的に学ぶ姿勢がる

☐ 技能・表現の観点

授業計画（全体）

テキストを用いて進めていく
法律の作られた理由や背景から学び、内容を学ぶ

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～2	法律とは		
3～4	動物愛護法１		
5～6	動物愛護法２		
7～8	動物愛護法３		
9～10	ワシントン条約、ラムサール条約		
11～12	絶滅危惧種について		
13～14	鳥獣保護法		
15～16	外来生物１		
17～18	外来生物２		
19～20	狂犬病予防法、身体障害者補助犬法		
21～22	薬機法、麻薬及び向精神薬取締法		
23～24	感染症法、家畜伝染病予防法		
25～26	獣医師法、獣医療法		
27～28	個人情報保護法、廃棄物処理法、労働基準法、労働安全法		
29～30	単元未試験		

成績評価方法

1　期末試験

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100%	秀、S（4）：９０点以上
小テスト								優、A（3）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、B（2）：７０点以上
授業態度								可、C（1）：６０点以上
発表・作品								不可、E（0）：５９点未満
演習								未修得、履修放棄、F
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数
担当教員	岡田　純子			実務経験紹介				

科目名	トリミング実習Ⅰ（基礎）	単位数	16	科目コード	
授業形態	演習	時間数	240	開設期	１年前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	グルーミングの基礎、トリミングの基礎を身につける 犬と猫の扱い方、接し方、保定の仕方を体得する				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	ＪＫＣ最新ドッググルーミングマニュアル				

授業の到達目標
☑ 知識・理解の観点　毎回の技術演習で扱い方や接し方を理解する
☑ 思考・判断の観点　毎回の技術演習で時間短縮を意識する
☑ 関心・意欲の観点　犬種や個体の違いを考える
☑ 態度の観点　教材犬・猫への接し方で負担を軽減する
☐ 技能・表現の観点　トリミングでカット方法の違いを理解する

授業計画（全体）
グルーミングの基礎・トリミングの基礎が出来る

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～8	グルーミング基礎(座学)　犬の扱い方、接し方(実演)　道具の扱い方等		
9～240	グルーミング基礎(実習)		

成績評価方法

1　演習

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀、S（4）：９０点以上
小テスト								優、A（3）：８０点以上
宿題授業外レポート								良、B（2）：７０点以上
授業態度								可、C（1）：６０点以上
発表・作品								不可、E（0）：５９点未満
演習	◎	◎	◎	◎	◎		100%	未修得、履修放棄、F
出席				○			欠格条件	（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	西田　八千代　他	実務経験紹介	現役トリマー、トリミングサロン勤務経験者他

科目名	トリミング実習Ⅰ（応用）	単位数	16	科目コード	
授業形態	演習	時間数	240	開設期	１年後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要　（目的、目標とする資格・検定等）	グルーミングの応用、トリミングの応用を身につける 犬と猫の扱い方、接し方、保定の仕方を体得する				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について（テキスト・参考書等）	ＪＫＣ最新ドッググルーミングマニュアル				

授業の到達目標	
☑ 知識・理解の観点	毎回の技術演習で扱い方や接し方を理解し、時間短縮出来る
☑ 思考・判断の観点	毎回の技術演習で時間短縮を意識する
☑ 関心・意欲の観点	犬種や個体の違いを考え、扱うことが出来、時間短縮できる
☑ 態度の観点	教材犬・猫への接し方で負担を軽減し、時間短縮出来る
☑ 技能・表現の観点	トリミングでカット方法の違いを理解し、時間短縮出来る

授業計画（全体）

グルーミングの応用・トリミングの応用が出来る

授業計画（授業単位）

回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録
1～240	グルーミング応用(実習)		

成績評価方法

1　演習

2　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

3

4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験							
小テスト							
宿題授業外レポート							
授業態度							
発表・作品							
演習	◎	◎	◎	◎	◎		100%
出席				○			欠格条件

成績評価基準
秀、Ｓ（４）：９０点以上
優、Ａ（３）：８０点以上
良、Ｂ（２）：７０点以上
可、Ｃ（１）：６０点以上
不可、Ｅ（０）：５９点未満
未修得、履修放棄、Ｆ
（　）内はＧＰＡ点数

担当教員	西田　八千代	実務経験紹介	現役トリマー、トリミングサロン勤務経験者他